



ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / アスパラガス、ブルーベリー、野菜

# 石井 弘昭さん (36歳) (営農地 / 三潁郡大木町)

## 若い力でアスパラガス産地を元気にしたい!

### 《就農のきっかけ》

本当に今の仕事を続けるべきか考えた時、農業をしている祖父の姿が頭に浮かんだ。

父は非農家、母方の祖父が農家である石井さん。高校卒業後、職業訓練校などを経て、21歳で重機のオペレーターとして福岡県内の会社に就職しました。会社は県内でしたが、勤務先は佐賀、熊本、長崎など、九州一円だったそうです。

就農のきっかけは、25歳の時に大けがをして、長期間仕事を休まなくてはならなくなった時のこと。「将来、このまま今の仕事を続けてもよいのか」と悩んだ挙句、両親に相談したそうです。

母方の祖父は石井さんが就職した頃に亡くなり、その後、両親が米やハウスで野菜を栽培して農地を維持してきました。家族会議の結果、一人でもある程度の面積が栽培できるアスパラガスを選び、取り急ぎ既存のハウスで母が栽培していたアスパラガスを引き継ぐことになりました。

### 《これまでの過程》

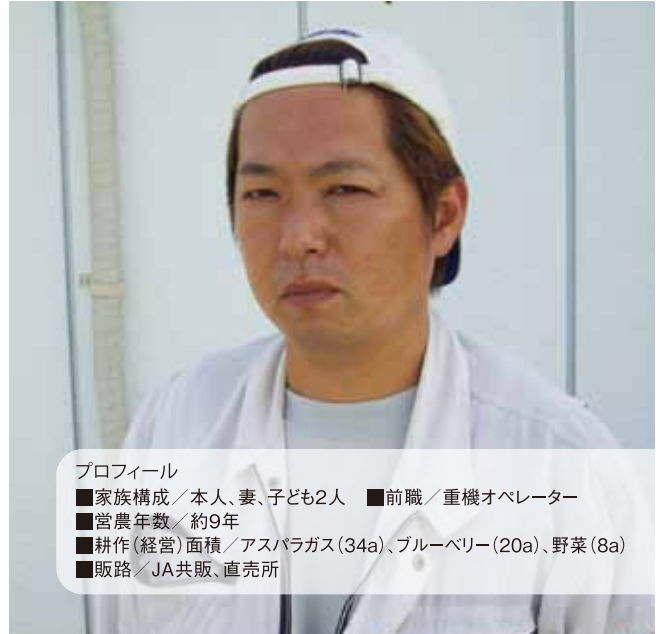
## しんどかったアスパラガス経営の始まり

ハウス栽培のアスパラガスに取り組むことになりましたが、栽培技術習得のため、JA部会の農家で約1年間研修を行いました。研修の合間にJA部会員のハウスや佐賀県で視察を行い、栽培技術習得に励みました。また、近くに県の県農業総合試験場筑後分場があり、よく訪ねていたそうです。

アスパラガスで生計を立てるには、引き継いだ規模が小さかったため、就農時にJAのリース事業に応募し、16aの規模拡大を行いました。「JAのリース事業に取り組めたのは、本当に良かったと思っています。けれども、アスパラガスが順調に収穫できるまでの間、かなりしんどかったですね。」と石井さんは当時を語っています。

アスパラガスは定植後、株を養成しながら収穫するため、収量が安定するまで数年かかるのが特徴です。この間、昼は栽培管理、夜はアルバイトで生活費や運転資金などを確保してきたそうです。

その後、さらに施設を拡大し、現在は34aまでの規模になっています。収量も安定してきていますが、ハウスは地下水位が高く、梅雨時期は浸水しやすいため、排水対策などに重点的に取り組んでいます。



#### プロフィール

- 家族構成 / 本人、妻、子ども2人
- 前職 / 重機オペレーター
- 営農年数 / 約9年
- 耕作(経営)面積 / アスパラガス(34a)、ブルーベリー(20a)、野菜(8a)
- 販路 / JA共販、直売所

### 《これからの展望》

## 若手とともに学んで自分も成長していきたい。

最近、JA管内でイチゴやアスパラガスを希望する新規就農者が増えており、石井さんも今までに数名の研修生を受け入れています。

自分も研修生として先輩農家にお世話になったことから、農業に取り組む後輩への思いは強いものがあるようです。「自分は多くのことを失敗したが、違う人が自分と同じ失敗をする必要はない。そのためには失敗の事例を多く伝え、またみんなで共有することが重要。こうすることで全体のレベルが上がっていくと思っています。」と、石井さん。現在、JAの部会員数も順調に増えており、若手栽培農家は自主的に研究会を開催し、お互いのレベルアップを目指しています。石井さんはリーダー的存在として、時には厳しく、時には優しく彼らを指導しています。「単収の向上など、課題は山ほどありますが、今は子供が小さいので、育児を頑張ることが当面の目標。」と話す石井さん。若い生産者とともに将来のアスパラガス産地をリードしてくれるものと期待されています。



## Good 成功のためのポイント

1. 新規就農者は、まず情報収集をしっかり行うこと。
2. 無理のない計画を立て、確実に達成していくこと。農地の条件はよく理解しておく。
3. アスパラガスはやり直しがきかないので、最初が大事。